

平成30年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

道府県名【滋賀県】

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

学校名【河瀬中学校】

1 実践テーマ	【 I 】
2 実施対象者	中学1・2・3年生徒
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 () ② 行事名 (オリンピックパラリンピック理解教育) ③ その他 () (2) 地域における活動 ① イベント名 () ② その他 ()
4 目標 (ねらい)	オリンピック・パラリンピックへの理解を深めるとともに、車椅子バスケットボールのparaアスリートとして活躍し、2020 東京パラリンピックを目指す北田千尋選手が、障がいを乗り越え、さらなる高みを目指す姿勢から、生徒たちに困難に立ち向かう勇気と心構え、どのような状況においても夢に向かって努力することの尊さを学ばせたい。
5 取組内容	事前学習：①オリンピックとパラリンピックの歴史や意義を知ろう ② パラリンピックスポーツについて知ろう 講演会 第一部「車椅子バスケットを知ろう」講演・実演 約30分 第二部「車椅子バスケットとの出会い」講演 約25分 第三部「ともに生きる」講演 約25分 質疑応答 約20分 事後学習：振り返りシートの記入 集約・抜粋したものを配付し、お互いの考えや思いを共有する
6 主な成果	本校の生徒は、どちらかといえばおとなしく、内向的、受動的な傾向があるが、今回の講演を通して、人生を主体的に生きることの大切さや魅力に気づけた生徒が多かったようである。自分の夢や思いを大事にすること、挑戦すること、まず行動に移してみることに、失敗は恥ずべきものではないこと、人間はいつからでも変われることなどを実感したようである。また、自分に自信が持てたり、自分の今後について勇気づけられたりした生徒も多かったようである。さらに、障害への見方も大きく変わった生徒が多いようだ。

7実践において工夫した点 (事業の特色)	・スポーツやオリンピック・パラリンピックにあまり関心のない生徒もいるため、事前学習を通して、それらの意義や価値、工夫などについてあらかじめ学習させて、関心を高めた状態で講演会に臨めるようにした。 ・おとなしく内向的な生徒が多いため、体育委員やバスケットボール部員に協力を依頼し、当日の実演や質疑応答に積極的に参加するよう呼びかけた。彼らの姿を見て他の生徒も触発され、予想以上に多くの生徒が意欲的に参加し、たいへん活気ある講演会となった。
8主な課題等	この講演会を通してどの生徒も大変多くの気づきを得たり勇気づけられたりしているが、その思いを今後も持ち続け自分の日々の活動に活かせるような工夫ができると良いと思われる。
9来年度以降の実施予定	中学校・高校合同で実施できるとよいが、未定。



熱くわかりやすく語っていただきました



日常用とバスケット用の車椅子の違い



車椅子バスケットの実演 かなりのスピード



生徒も車椅子でのシュートを体験